

令和 6 年度 福岡美容専門学校 北九州校

学校自己評価 報告書

(自令和 6 年 4 月 1 日 至令和 7 年 3 月 31 日)

福岡美容専門学校 学校自己評価委員

委員長 教頭 井町 憲治

委 員 広報室長 朝長 宏之

事務局次長 小田 亮介

教務企画課長 増田 葉子

教務企画 福原 菜美

令和 6 年度 福岡美容専門学校 北九州校 自己評価結果

1. 学校の教育目標

本校は、福岡県下 2,700 店舗の美容室が加盟する福岡県美容生活衛生同業組合が設置した美容学校です。後継者を育成して美容業界のさらなる発展に寄与するという理念のもと学校運営を行っています。

<教育方針>

お客様の幸せや喜びのために、常に美容の技術を磨き、お客様に永く愛され、必要とされる人材を育成し、送り出す。

◇基礎・基本技術を備えた人材の育成

◇礼儀やマナーが備わった人材の育成

<校訓>

愛美 ・ 創造 ・ 鍛錬

人を美しくし、笑顔や喜びを提供できる職業に誇りを持ちます。

美容の仕事を通じて、創造力を養い、可能性に挑戦します。

基礎・基本を身に付けるため、『心・技・体』を鍛えます。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

すべてのステークホルダーから高い評価と支持される学校を目指す。

迫り来る『少子化』に全職員知恵を出し、対策を立て実行する。

(1) 教育方針を踏襲するために、教育に直接携わる教員の質の向上を図る

(2) 学生募集、充足率 100%を目指す

通信生募集のあり方を検討する（折尾愛真高校美容専科コース、一般通信生）

(3) 国家試験合格率 100%を目指す

(4) 就職率 100%を目指す

(5) 美容組合の歴史や美容業界の教育を行い、業界発展の認識を深めさせる

(6) ICT を活用した授業の促進

3. 評価項目の達成及び取組状況

【評価 適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1 】

(1) 教育理念 目標

評価項目	自己評価
A、学校の理念・教育方針・育成人材像は定められているか	4
B、学校における職業教育の特色は何か	4
C、社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
D、学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	4
E、各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

①課題

- ・学校運営において、組合立の美容師養成施設として多様な展開が出来ているが、美容業種の拡大に伴い、それに対応すべく、カリキュラムの改革を必要とする。

②今後の改善方策

- ・よりトレンドに合わせたカリキュラムの見直しを行い、また、必修課目以外に自由に選べる選択授業の充実を目指す。多様な業種に合わせた新しいコースの設立も今後検討していきたい。

③特記事項

- ・入学直後に、施設を使用して校外マナー研修を実施。接遇の基本習得を目標とするとともに本校の教育理念を伝えている。

(2) 学校運営

評価項目	自己評価
A、目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
B、事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
C、運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
D、人事、給与に関する制度は整備されているか	3
E、教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
F、教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
G、情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①課題

- ・給与に関する規定は整備されているものの、人事評価については明確でない部分がある。将来に向けた人材育成と、ES（従業員満足度）向上のため、評価制度の見直しが急務である。

- ・学内の稟議は現在も紙ベースで行われており、ペーパーレス化による経費削減と、決裁までの時間短縮のため、ワークフローシステム導入の検討を続けているが、具体的な実施には至らなかった。

②今後の改善方策

- ・人事評価制度の見直しは、令和 6 年度の後半より着手しており、令和 8 年度からの運用を目指して継続して行う。
- ・ワークフローシステムについては、各社より提供されているサービスを比較検討し、採用するサービスと導入スケジュールを早期に決定させる。

③特記事項

特になし

(3) 教育活動

評価項目	自己評価
A、教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
B、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
C、学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
D、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
E、関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
F、関連分野における実践的な職業教育を目的とした実務実習（インターンシップ）が行われているか	4
G、授業評価の実施・評価体制はあるか	4
H、職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
I、成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準は明確になっているか	4
J、資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
K、人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
L、関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務を含め）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
M、関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
N、職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

①課題

- ・美容業界での活躍を夢見て本校へ入学してくる学生のため、将来の職業選択肢が増やせるように、よりトレンドに合わせたカリキュラムの見直しが必要である。
- ・教職員の人員については、余裕がある状況ではなく、将来的な人材確保と業務負担軽減が課題である。
- ・教員に向けた現場技術の習得を目的とした研修や、ICT授業の質を高めるための研修等を実施しているものの、職員全体の能力開発に向けた包括的な研修体制については、さらに検討の余地がある。

②今後の改善方策

- ・現在も実施している定期的な学生アンケートからの意見を参考に、授業内容や進め方を柔軟かつ継続的にアップデートしていく。
- ・教員の働きやすさを向上させることで、定着率を高めるとともに、外部からの新たな人材の応募意欲を促進させる。既存教員のスキルアップやマネジメント能力向上を図ることで、質の高い指導を可能な組織づくりを推進する。

③特記事項

特になし

(4) 学修成果

評価項目	自己評価
A、就職率の向上が図られているか	4
B、資格取得率の向上が図られているか	4
C、退学率の低減が図られているか	4
D、卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
E、卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

①課題

- ・本校では地元からの通学生が多いため、地域密着サロンとの連携強化が求められる。
- ・在学中の資格取得や国家試験受験について、学生の習熟度にかかなりの差があるため、合格基準に満たない学生への対策強化が必要である。
- ・卒業後の動向は、定期的な Web アンケートを実施しているものの、少数ではあるが、回答を得る事ができていない現状がある為、全学生の回答が集約出来るように検討が必要である。

②今後の改善方策

- ・在学生の希望に沿った就職先案内のためにも、サロン訪問などにより近況情報収集などをより強化していく。
- ・検定、国家資格取得のための対策をより早期に行い、定期的に習熟度テストを実施する。さらに、学生の意欲向上が必須であるため、1人1人が何に躓き悩んでいるのかを、必要に応じて個人面談を実施し把握に努める。

③特記事項

国家試験において不合格となった場合、卒業後も対象の学生と連絡を取り合い、可能な限り学校にて対策を取り、試験に合格するまでサポートを続けている。

入学者数と退学率、就職率、国家試験合格率 資料①										
入学年度	入学者数	卒業者数	退学数	退学率	休学数	就職者数	就職率	国家試験 受験者数	合格者数	合格率
R2 年度生	117 名	113 名	4 名	3.41%		111 名	98.2%	113 名	113 名	100.00%
R3 年度生	156 名	132 名	24 名	15.38%		128 名	96.9%	132 名	127 名	96.21%
R4 年度生	160 名	138 名	22 名	13.75%		135 名	97.8%	138 名	131 名	94.92%
R5 年度生	160 名	131 名	28 名	17.5%	1 名	124 名	94.6%	131 名	124 名	94.65%
R6 年度生	156 名									

(5) 学生支援

評価項目	自己評価
A、進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
B、学生相談に関する体制は整備されているか	4
C、学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
D、学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
E、課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
F、学生の生活環境への支援は行われているか	4
G、保護者と適切に連携しているか	4
H、卒業生への支援体制はあるか	4
I、社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
J、高校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	3

①課題

- ・スクールカウンセラーを令和 5 年 11 月より導入。担任・副担任とは別のアプローチでのケアを期待しているが、利用しやすい環境作りには改善の余地がある。
- ・学生管理の上で、保護者との連携は必要不可欠である。入学時および進級時に挨拶・情報共有を目的として担任から全学生の保護者に電話連絡をしている。年 1 度保護者参観も設けているが、参加出来ない保護者も多数いる。

②今後の改善方策

- ・オリエンテーション等で学生へのスクールカウンセラーの紹介を行い、顔を知ったうえで相談できる安心感を与え、利用者がより気軽に相談できる体制に改善していく。
- ・保護者参観に参加できない保護者のため、定期的な実施を検討し、学校理解を深めたい。

③特記事項

特になし

(6) 教育環境

評価項目	自己評価
A、施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4
B、学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
C、防災に対する体制は整備されているか	4

①課題

- ・敷地が住宅地の中にある為、学生の騒ぎ声などで近隣住民への影響が出ないように、学生への学校生活の指導の徹底が必要である。

②今後の改善方策

特になし

③特記事項

特になし

(7) 学生募集

評価項目	自己評価
A、学生募集活動は、適正に行われているか	4
B、学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
C、学費は妥当なものとなっているか	4

①課題

- ・本校の学生募集活動は中長期計画に基づき、適正に行われており、教育成果においては制作物・HP・SNSを通じ、適正に情報提供できている。
- ・学費においては物価高の影響を受けつつも、募集要項に明確な総額費用を記載しており、妥当であると判断している。しかしながら、合格後の経済的な理由による入学辞退が毎年複数件発生していることは課題である。

②今後の改善方策

- ・オープンキャンパスにおいて来校者が職業理解や学校理解をより深められるように努める。また、上級学校進学に必要な学費について、引き続き保護者理解を得られるよう学費相談会を継続する。
- ・美容学校入学に関する費用について、スカラシップアドバイザーや教育ローンに関する説明会を今後も継続し、より多くの保護者の参加を促す。学費納入に関するスケジュールや手続き方法を保護者にご理解いただくことで、より円滑な入学手続きに移行でき、入学辞退の抑制にも繋がるものとする。

③特記事項

特になし

(8) 財務

評価項目	自己評価
A、中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	4
B、予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
C、財務に関する会計監査は適正に行われているか	4
D、財務情報公開の体制整備はできているか	4

①課題

- ・学校事業における収入のほとんどは学費である。昼間課程において安定した入学者数を確保できていることから財務は安定していると言えるが、今後さらに加速する少子化や、建物の老朽化に備えて引き続き計画的な予算策定が必要である。

②今後の改善方策

特になし

③特記事項

- ・学費に関して、奨学金（給付型）受給者の増加に伴い修学支援制度適用も増加している。修学支援制度適用に際して授業料の減免が複雑化し、学費（授業料）請求の猶予措置や処理に苦慮している。

(9) 法令などの遵守

評価項目	自己評価
A、法令、専門学校設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか	4
B、個人情報に対し、その保護のための対策がなされているか	4
C、自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
D、自己評価を公開しているか	4

①課題

- ・適正な運営と情報公開を今後も行っていく。

②今後の改善方策

特になし

③特記事項

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	自己評価
A、学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献を行っているか	4
B、学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
C、地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	4

①課題

- ・高校生の分野研究に伴う、学校見学の受入れを行い、また小学生を対象とした職業体験イベントに参加することで、改めて社会貢献できる喜びを学生たちも実感したものと思われる。
- ・地域貢献・ボランティア活動として毎月地域清掃を行い、地域の方と触れ合う機会を設けている。また、市民講座として地域の方々にネイルやメイクの講座を定期的で開催し、学び直しの機会として多くの方に参加いただいている。

②今後の改善方策

- ・引き続き年間行事へ反映し、予算と人員を確保することで継続開催できるように努める。

③特記事項

特になし

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

項目(1)から(10)に沿った適正な学校運営ができており、このことが近年の安定した入学者の確保に繋がっていると考えられる。しかしながら学生募集においては、年々少子化が進んでおり、企業・大学・他の専門学校との競争は熾烈を極めている。関係各所との連携をより深め、特色を出していき、地域と共に成長する学校を目指す必要がある。

時代とともに変化していく業界のニーズや学生の価値観に対応できるよう、教職員の質の向上には継続して取り組んでいきたい。

以上